



「生活保護改悪2法案を廃案に」と訴えて座り込みを行う全生連の人たち＝18日、国会前

11/19  
市原

## 生活保護

# 改悪2法案を廃案に

## 全生連、国会前座り込み

「生活保護改悪2法案を廃案に追い込むまでがんばろう」。全生活と健康を守る会連合会（安形義弘会長）は18日、国会前で座り込みと国会議員要請を行いました。

同2法案は13日、わずか8時間半の委員会審議の後、参院本会議で可決され、衆院に送られました。同会の野口将人さん

は「生活保護法改悪法案に、自治体が『水際作戦』をしないようにする」とした付帯決議がついた。こんな付帯決議をつけるなら、法案の必要性はない」と指摘。「生活保護を必要とする人が受けづらくなる法案を廃案にするまで最後までがんばりたい」と国会前で訴えました。

知英子さん(62)は「生活保護利用者の増加を理由に、(扶養義務の強化や申請書提出の義務化などで)申請しづらくし、必要な人から生活保護を遠ざけるのは道理がない」と強調しました。

「命の平等がまったくないことに怒りを感じる。誰もが憲法25条のうたう最低限度の生活を送れるようにしたい」と話すのは、東京都品川区の松田佳子さん(76)。「この2法案は、生活保護から必要

とする人を締め出すことが本当の目的。何としても通すわけにはいかない」

座り込みは10月16日から連日行われ、日本共産党の国会議員が激励に駆けつけています。

「命の平等がまったくないことに怒りを感じる。誰もが憲法25条のうたう最低限度の生活を送れるようにしたい」と訴えて座り込みを行う全生連の人たち＝18日、国会前